

# 校長室の窓



平成28年4月18日  
第2号

祈り～熊本の震災～

平成28年4月14日21時26分頃に、熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード6.5、最大震度7の地震が発生しました。さらに、その28時間後の4月16日1時25分ごろには、同じく熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.3、最大震度6強の地震が発生しました。40人以上の方がお亡くなりになり、何千人もの方がけがに苦しみ、何万人の方が避難所でいまだに続く余震に不安な毎日を過ごされています。

私たちにできることはあまりありませんが、せめて被災されたみなさんや救援に当たるみなさんの無事を祈りたいと思います。

ニュース番組のインタビューに「東日本の震災は人ごとだった」とおっしゃった方がいらっしゃいました。確かにその通りで、こうして災害の報道を見ている私たちのなかにも、「大変だなあ、お気の毒だなあ」と思う反面、どこか人ごとのような気持ちがないとはいえません。しかし、東海・東南海・南海の地震が、いつ起きてもおかしくないといわれ続けている地域に住む私たちにとって、他人事であってはならないと思います。

今朝の放送朝礼で、児童には熊本への祈りと震災への心構えについて話しました。ご家庭でも、この機にいざというときの対処について話し合っただけると幸いです。

大災害のたびに諸外国のメディアは、日本人の整然として助け合う行動に対して大きな賛辞を寄せています。その行動は日本人の気質によるものだという人もいますが、私は学校が果たした役割は大きいと思っています。まさかのときに落ち着いて行動し、弱者をいたわり、自他の命を大切にできる子。そんな正則の子を育てるよう、全職員でがんばります。



## ～本物の「校長室の窓」～

新学期が始まって、静かだった運動場から、元気のよい<sup>はり</sup>声が、窓越しに伝わってきます。耐震の梁と、こんもりしたカイヅカイブキが、外の景色と日差しを遮っています。その細いすき間に、ブランコや滑り台に群がる子どもの姿が、見えたり隠れたりしています。

私たちの仕事は、子どもの本来の姿を求めて、こうやって一生懸命見つめ続けることだと思っています。校長室の窓は、校舎全体からすればとても小さなものです。でも、精一杯ここから見える正則小の景色を伝えていきたいと思っています。